

# 第95回定期全国大会 山形県天童市で開催!!

9月11日～12日にかけて、第95回定期大会が山形県天童市の「天童ホテル」で開催された。大会には、代議員88名中88名、特別代議員85名、執行部19名中18名、傍聴55名の総数246名の参加があった。なお、二日目は傍聴51名の総数242名となり、二日間を通して書記局2名と会場係5名が別途参加した。

議長団には、東海地方:畠中 商博(衣浦支部) 関西地方:坂本 幸治(阪神支部)を選出し、ご来賓あいさつには、全国港湾 真島委員長、交運労協 住野議長をお招きし、ご挨拶を受けた。大会提出議案では、「能登半島地震のお礼」、「24春闘の進め方が分かりづらかったので24春闘の総括をしっかりと」、「地方港の国際フィーダー港化に危機感を覚える」、など、38名の質疑があったが、すべての議案について挙手での採決を行った結果、第1議題から第4議題まで、(第5議案は信任投票)採択された。

第5議題では、今期で退任される、新妻中執と佐藤中執に代わり、新たに東北地方の千葉中執と日本海地方の城光中執を確認し、新体制を確立した。

最後に、鈴木誠一委員長の、「全港湾はトップダウン、ボトムアップでないといけない。全港湾のイニシアチブは放棄したわけではない。全港湾運動を浸透させていき、料金問題の打破には労働組合が頑張らないといけない。そのためにも各地方伝家の宝刀を磨き続けて頂きたい。全港湾から労働運動を変えていきたい、世界はきちんと闘って勝ち取っている。政治を変えなければいけない。政治は民の為にある、政治家を育てていきたい。現行執行部は新執行部にたたかいの引継ぎをおこなう。」との総括答弁が行われ、全体の団結ガンパローで大会は成功裏に終了した。



